

## 姉妹旅行

臨床検査科支部 中川 美名子（16期生）

川崎医療短期大学を卒業して早24年、もうすぐ四半世紀が過ぎようとしています。

やっと子供にも手がかからなくなり、数年前より泊まりがけでの学会参加もできるようになりました。そして2年前より始まった姉との旅行。始まりは姉からの誘いでした。“久住山に行こう”と。私は“トレッキングに毛が生えたくらい”という姉の言葉を信じ大分へと旅立ちました。

いざ登り始めると“何か様子がおかしい…” 登り坂は急で、“どんどん足元がゴロゴロした岩場になっていくような？” 感じ。そして何より、“ゴールが見えない・・・(わからない)” 不安。

さらにしばらく進んだ後、やっと見えた山頂の前には、這うようにして登らなければ前へ進めないような岩だらけの斜面が待っていました。

“・・・マジですか?!”

それでも何とか登頂を果たし、来た道を歩き登山口に戻ったのは5,6時間後のことで、途中何度も“だまされた…” とつぶやきながらも、終わってしまえばしっかりとした“達成感” が得られたのでした。

二度目の旅行はこれまた姉が計画し、誘ってくれました。今度は“尾瀬に行こう”と。尾瀬といえば“夏がく一れば思い出す♪”の歌のイメージしかありませんでしたが、これが“大満足”の旅となりました。

多少の足場の悪さはあるものの、基本は歩き易い道を進めばいいので同じ6時間ほどでしたが随分楽でした。

周りに広がる湿原を見ながら“この花の名前はなんだろう”と目の前の高山植物をルーペで観察し、本を見ながら進んでいくのは、とても楽しい時間で充実したものでした。残念ながら、時期が遅かった為ミズバショウは一輪だけしか見る事ができませんでしたが、他にワタスゲ、ニッコウキスゲ、キンコウカなど見たことのない植物をたくさん見る事ができました。

その結果姉と私は、尾瀬には“違う季節に違うコースを” 歩きに“また来たいな”と決めたのでした。

こうした姉と私の旅は毎度が“珍道中”ですが、それでもいつも何とか楽しい旅となり、“これからも続けていきたい”と思っています。



ミズバショウ



ワタスゲ



ニッコウキスゲ



キンコウカ



チングルマ



モウセンゴケ